

# 箕輪町人口ビジョン

令和7年3月

箕輪町

# 目次

## I 人口現状の分析

I-1	これまでの町人口の推移 .....	1
I-2	1980 年以降の大幅な人口増加 .....	1
I-3	2005 年以降は人口減少 .....	2
I-4	依然として自然減 近年は社会増減の繰り返し .....	2
I-5	平均寿命の伸び率は鈍化 .....	3
I-6	近年は出生率が上昇 .....	4
I-7	20 歳代までの出生率が県・郡平均を上回る .....	5
I-8	39 歳までの女性人口の減少に合わせ出生数も減少 .....	6
I-9	25 歳未満の女性従業者の減少が改善 .....	6
I-10	近年は県内転入超過傾向 .....	8
I-11	外国人も増加傾向 .....	8
I-12	若年層の県外転出傾向が続く .....	9
I-13	25～34 歳は郡内市町村と転出入をやり取り .....	10
I-14	第 2 期人口ビジョンのチャレンジ目標に近づいている .....	10
I-15	箕輪町人口の自然増減と社会増減の課題 .....	11

## II 将来人口推計

II-1	近年の人口は横ばい .....	13
II-2	2020 年実績人口は、社人研推計を上回る※ .....	13
II-3	2030 年推計人口は社人研推計で 23,400 人、町独自推計で 23,600 人の予測 .....	14
II-4	出生数・転入者数の増加施策の実施で 2030 年に 23,700 人程度 .....	14
II-5	2030 年には合計特殊出生率を 1.65 に .....	15
II-6	移住定住対策により 1 年で 50 人、10 年間で 500 人増加 .....	15
II-7	箕輪チャレンジで取り組む施策 .....	16
II-8	箕輪チャレンジで 15 歳未満人口割合を上昇 .....	17
II-9	区ごとの将来推計人口 .....	18
II-10	社会移動がないと仮定すると 2030 年までに 1,500 人程度減少 .....	19
II-11	箕輪チャレンジ型推計で 2030 年までに 1,200 人程度の減少 .....	19
II-12	今後も 15 歳未満は減少、65 歳以上は増加 .....	20
II-13	これからのまちづくりは、施策の取捨選択が必要 .....	20

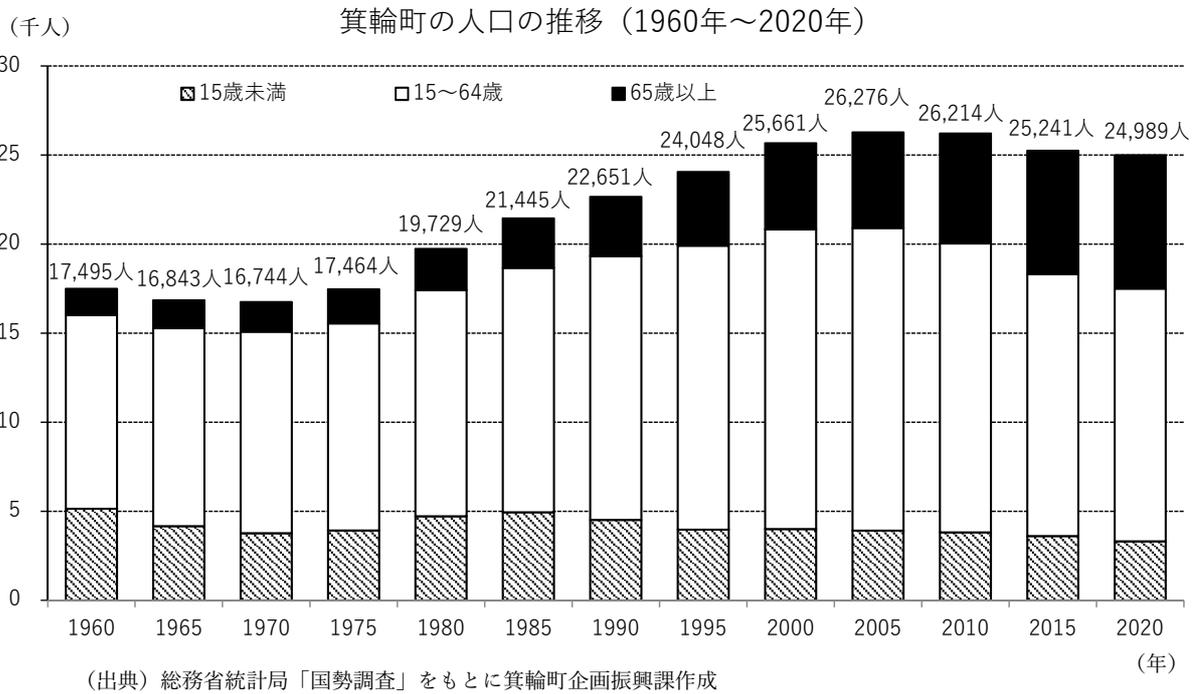
<b>【参考】</b> .....	21
-------------------	----

人口ビジョンで用いた将来人口推計方法 .....	21
--------------------------	----

# Ⅰ 人口現状の分析

～町人口の増減から見える課題～

## 1-1 これまでの町人口の推移



2005年の26,276人をピークに人口減少が続いている。

## 1-2 1980年以降の大幅な人口増加

郡内市町村等の人口増加率（1980年～2020年）

市町村名	1980年 (人)	2020年 (人)	増加率 (%)
上伊那郡	174,844	179,892	2.9
伊那市	67,544	66,125	△ 2.1
駒ヶ根市	31,179	32,202	3.3
辰野町	23,894	18,555	△ 22.3
<b>箕輪町</b>	<b>19,729</b>	<b>24,989</b>	<b>26.7</b>
飯島町	10,515	9,004	△ 14.4
南箕輪村	8,877	15,797	78.0
中川村	5,524	4,651	△ 15.8
宮田村	7,582	8,569	13.0
下諏訪町	26,574	19,155	△ 27.9

県内市町村の順位別人口増加率（1980年～2020年）

順位	市町村名	1980年 (人)	2020年 (人)	増加率 (%)
1	南箕輪村	8,877	15,797	78.0
2	御代田町	9,851	15,555	57.9
3	山形村	5,578	8,400	50.6
4	軽井沢町	14,195	19,188	35.2
5	茅野市	43,942	56,400	28.4
6	松川村	7,496	9,599	28.1
<b>7</b>	<b>箕輪町</b>	<b>19,729</b>	<b>24,989</b>	<b>26.7</b>
8	原村	6,125	7,680	25.4
9	安曇野市	75,209	94,222	25.3
10	白馬村	7,131	8,575	20.2
参考	日本	117,060,396	126,146,099	7.8
	長野県	2,083,934	2,048,011	△ 1.7

(出典) 総務省統計局「国勢調査」をもとに箕輪町企画振興課作成

1980年と比較すると人口は多いが、2005年をピークに人口減少に転じているため、増加率は低下（2015年比マイナス1.2ポイント）。県内では上位2町村が前回増加率を上回る。

### 1-3 2005年以降は人口減少

箕輪町と他市町村等との人口増減率の5年ごとの比較（1980年～2020年）

（単位：％）

	箕輪町	全国	長野県	辰野町	飯島町	南箕輪村	中川村	伊那市	駒ヶ根市	宮田村	下諏訪町
1980-1985	8.70	3.41	2.54	0.17	1.81	11.64	0.98	3.85	3.90	4.17	△ 0.03
1985-1990	5.62	2.12	0.92	△ 0.14	0.90	7.63	△ 1.08	0.67	1.16	△ 0.05	△ 3.94
1990-1995	6.17	1.58	1.73	△ 2.96	1.74	13.75	△ 0.07	2.28	2.53	2.65	△ 3.86
1995-2000	6.71	1.08	0.97	△ 3.39	△ 0.86	10.48	△ 0.71	△ 0.94	2.19	7.27	△ 2.47
2000-2005	2.40	0.66	△ 0.86	△ 2.70	△ 2.98	1.61	△ 3.87	0.33	0.23	3.18	△ 4.46
2005-2010	△ 0.24	0.23	△ 1.99	△ 4.09	△ 6.32	6.78	△ 3.59	△ 0.98	△ 2.10	0.07	△ 5.82
2010-2015	△ 3.71	△ 0.75	△ 2.49	△ 5.45	△ 3.76	3.58	△ 4.41	△ 3.96	△ 2.77	△ 1.70	△ 6.02
2015-2020	△ 1.00	△ 0.75	△ 2.42	△ 6.15	△ 5.52	4.87	△ 4.10	△ 3.14	△ 1.70	△ 2.86	△ 5.34

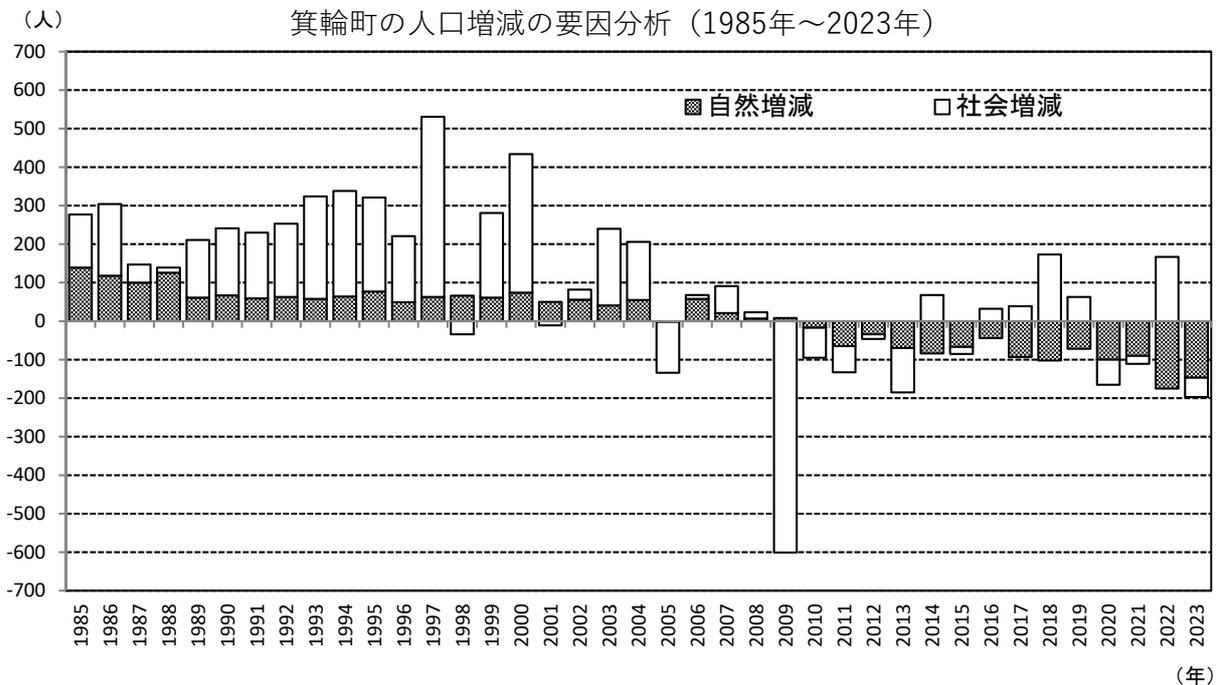
（出典）総務省統計局「国勢調査」をもとに箕輪町企画振興課作成

（注）箕輪町より増加率の高い箇所の数字を白抜きとした。

2010年～2015年では減少率が拡大し、全国、長野県よりも減少率が高くなったが、2015年～2020年は、減少率は大きく改善した。

### 1-4 依然として自然減 近年は社会増減の繰り返し

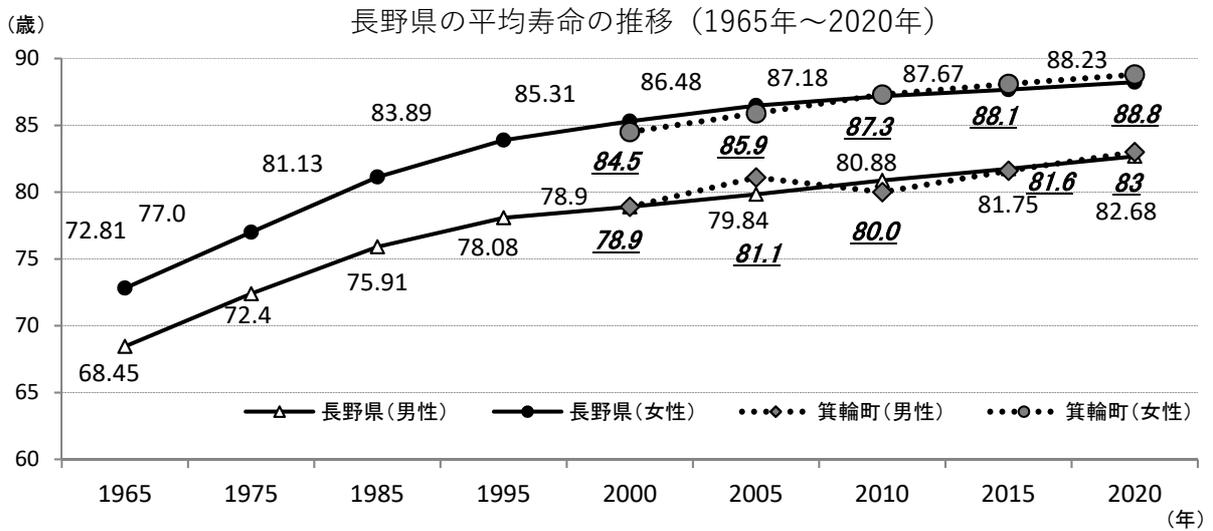
箕輪町の人口増減の要因分析（1985年～2023年）



（出典）長野県毎月人口異動調査を基に箕輪町企画振興課作成

2010年以降は自然減が続いている。2008年のリーマンショック翌年の2009年に大きな社会減となったが、それ以降は社会増減を繰り返している。

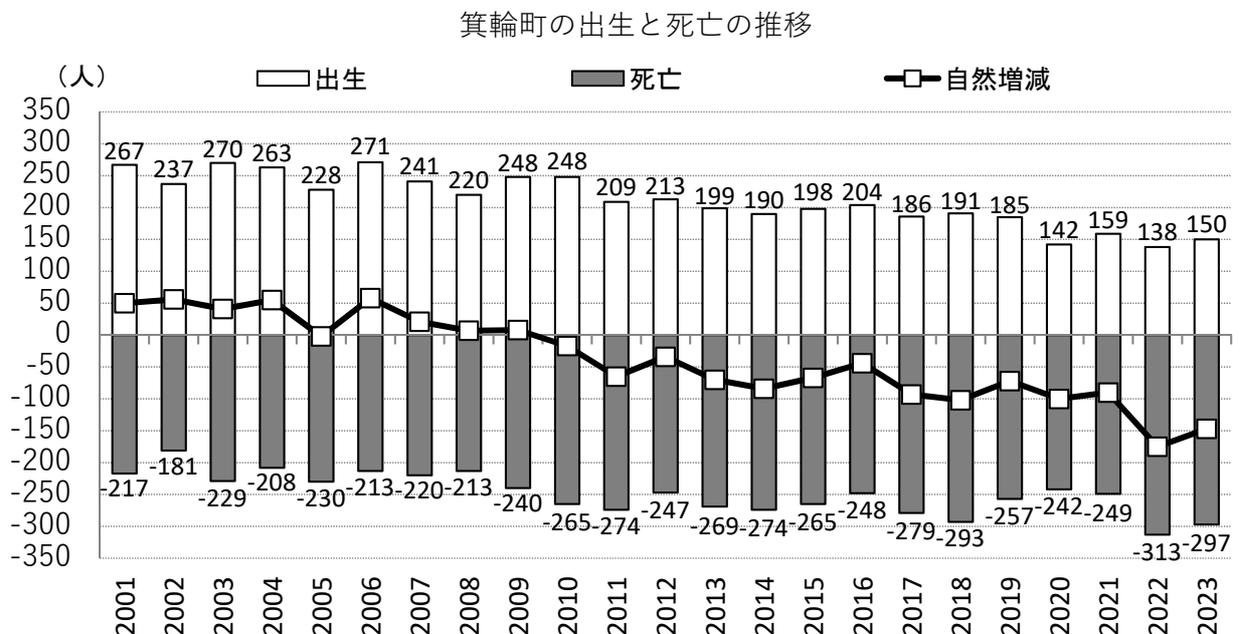
## 1-5 平均寿命の伸び率は鈍化



(出典)厚生労働省大臣官房統計情報部「都道府県別生命表の概況」をもとに箕輪町企画振興課作成

(注) 長野県データとしたのは市町村別では長期にわたるデータがないため。

平均寿命は延びているが、2000年以降は伸び率が鈍化している。町の男性平均寿命は、横ばい傾向であったが、ここ10年は上昇している。

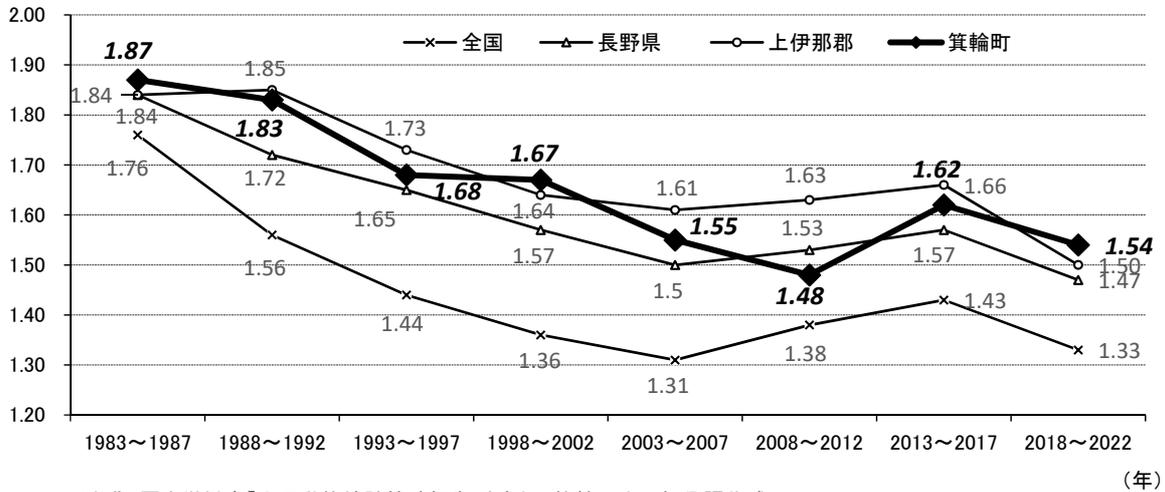


(出典) 長野県毎月人口異動調査を基に箕輪町企画振興課作成

2010年以降は一時的に出生数が増加しても、死亡数が上回っていることから自然減が続いている。2017年以降、出生数が200人を上回っている年はない。

## 1-6 近年は出生率が上昇

箕輪町の合計特殊出生率の推移(1983年～2022年)

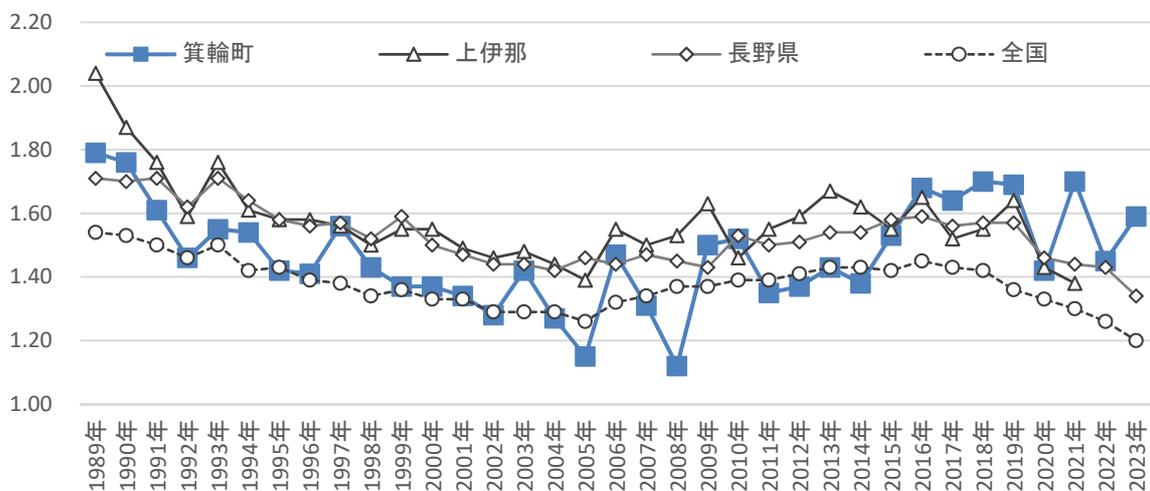


(出典)厚生労働省「人口動態統計特殊報告」をもとに箕輪町企画振興課作成。

(注) 1 長野県、上伊那郡、箕輪町の2022年までの合計特殊出生率はベイズ推計を用いた。

2 全国の合計特出生率は、1983年から1997年は公表値の5年平均の値、1998年から2022年まではベイズ推計の値を用いた。

期間合計特殊出生率の推移



表\_期間合計特殊出生率の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
箕輪町	1.52	1.35	1.37	1.43	1.38	1.53	1.68	1.64	1.70	1.69	1.42	1.70	1.45	1.59
上伊那	1.46	1.55	1.59	1.67	1.62	1.55	1.65	1.52	1.55	1.64	1.43	1.38		
長野県	1.53	1.50	1.51	1.54	1.54	1.58	1.59	1.56	1.57	1.56	1.48	1.44	1.43	1.34
全国	1.39	1.39	1.41	1.43	1.43	1.42	1.45	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.28	1.20

(出典) グラフ・表共に長野県「衛生年報」をもとに箕輪町企画振興課作成 (2017年以降は町データを用いている)

2015年以降、町の出生率は上昇傾向にあり、2016年以降は概ね上伊那郡・県を上回っている。

## 1-7 20歳代までの出生率が県・郡平均を上回る

母の年齢階級別出生率(人口対千)

箕輪町

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1998～2002	3.2	46.4	121.8	119.6	37.4	4.4	0.1
2003～2007	5.6	42.6	100.8	107.7	48.1	5.9	0.1
2008～2012	3.1	29.1	97.9	103.4	51.8	10.2	0.3
2013～2017	4.3	36.1	95.6	119.7	56	10.9	0.4
2018～2022	2.9	34.7	91	109.4	59.2	11.5	0.3

(注) 県・郡のいずれの平均も下回る数値を白抜きとしている

長野県

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1998～2002	4.1	44.2	111.5	111.8	37.3	4.5	0.1
2003～2007	3.8	38.8	99.4	105.4	49.4	8.9	0.2
2008～2012	3.8	38.8	99.4	105.4	49.4	8.9	0.2
2013～2017	3.6	33.5	94.7	113	57.6	11.2	0.3
2018～2022	2.1	26.2	87.7	106.9	59.5	12	0.3

上伊那郡

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1998～2002	3.9	45.0	120.5	117.7	36.8	4.4	0.1
2003～2007	4.4	44.8	111.9	108.5	46.6	5.1	0.1
2008～2012	3.4	39.5	111.5	110.6	51.2	9.0	0.2
2013～2017	3.6	34.6	102.8	118.5	59.9	11.7	0.3
2018～2022	2.8	24.8	86.2	113	60.2	12.9	0.2

(出典) 厚生労働省「人口動態統計特別調査報告書」をもとに箕輪町企画振興課作成

(注) 2013～2017年の範囲で14歳以下の出産数は15～19歳に含んだ

4つの階級\*で、県や上伊那郡より出生率が下回っていて、差も大きかったが、近年は上回っている。

\*15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳

## 1-8 39歳までの女性人口の減少に合わせ出生数も減少

箕輪町の出生年齢人口と出生数の推移

(単位：人、%)

	15～29歳		30～39歳		40～49歳	
	女性人口	出生数	女性人口	出生数	女性人口	出生数
1998年～2002年(a)	2,490.0	129.8	1,604.4	112.0	1,616.6	3.2
2003年～2007年(b)	2,247.4	105.0	1,880.2	132.0	1,489.8	4.2
2008年～2012年(c)	1,851.4	74.6	1,828.2	132.4	1,567.6	8.8
2013年～2017年(d)	1,568.8	67.6	1,491.8	116.8	1,739.6	10.2
2018年～2022年(e)	1,402.6	55.8	1,294.0	94.2	1,629.8	9.8
c-b 増減率	△ 17.6	△ 29.0	△ 2.8	0.3	5.2	109.5
d-c 増減率	△ 15.3	△ 9.4	△ 18.4	△ 11.8	11.0	15.9
e-d 増減率	△ 10.6	△ 17.5	△ 13.3	△ 19.3	△ 6.3	△ 3.9

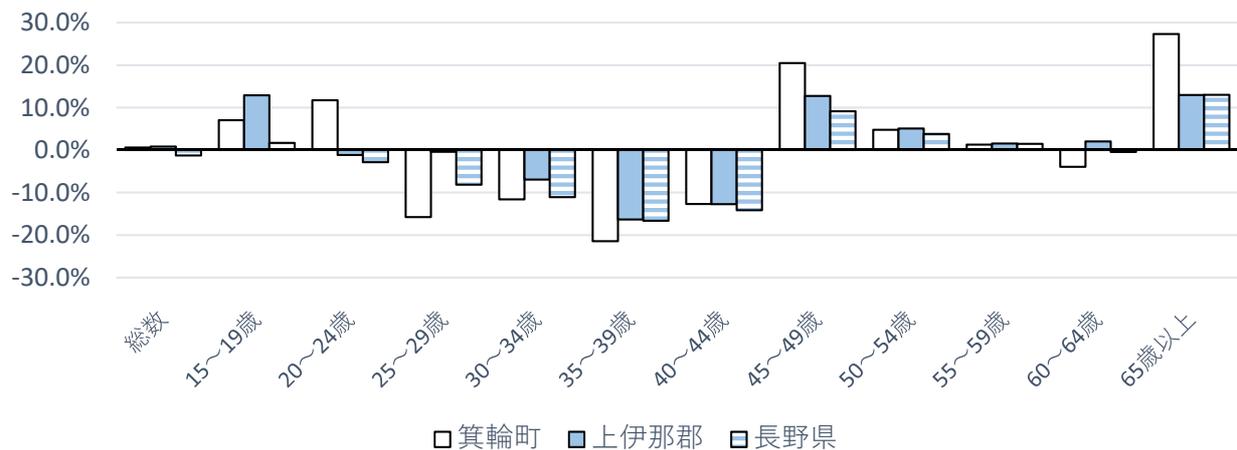
(出典) 長野県「衛生年報」、「人口動態調査」をもとに箕輪町企画振興課作成

(注) a～eの各期間の人口数、出生数は5年間の平均値。人口は各年10月1日を基準とした。

2018年以降は、すべての階層で女性人口、出生数がともに減少傾向となっている。15～39歳の女性人口は、減少率が2013年～2017年に比べ改善しているが、出生数は大きく減少している。

## 1-9 25歳未満の女性従業者の減少が改善

年齢別・女性従業者数の増減率（2015年～2020年）



(出典) 総務省統計局「国勢調査報告」をもとに箕輪町企画振興課作成

25歳未満の女性従業者数は増加したが、25～44歳女性従業者数は減少している。特に39歳までの女性従業者は上伊那郡・県よりも減少率が高い。

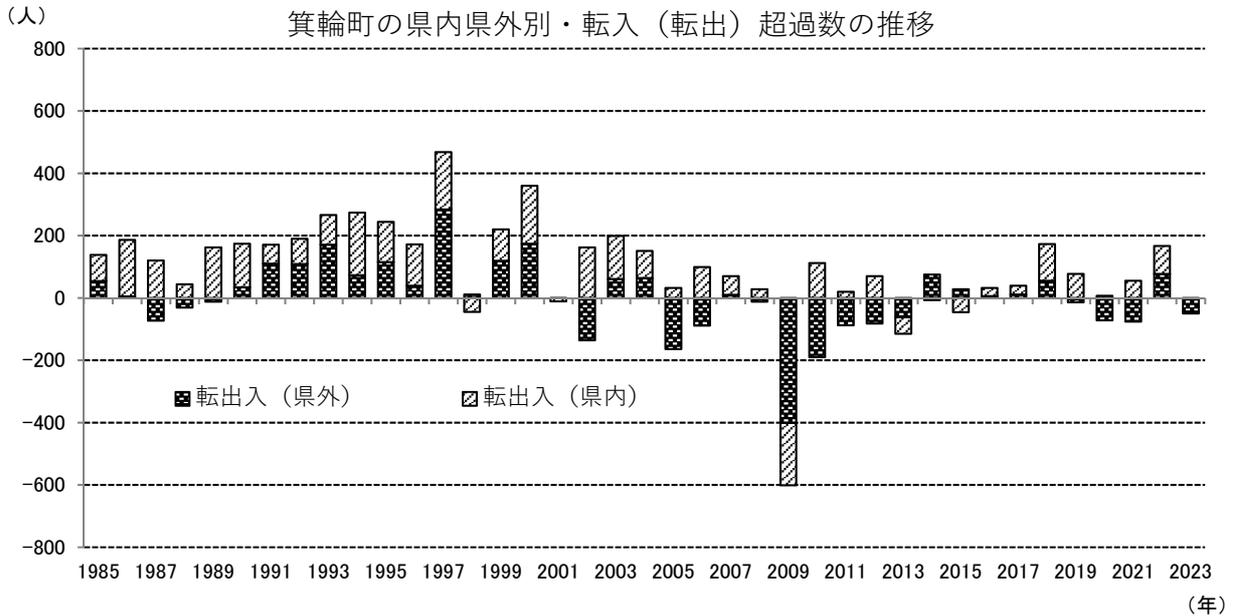
産業に対する 15～39 歳女性従業者数と割合（2020 年）

	全産業 女性従業者数(人)	製造業 女性割合	県との差	医療、福祉 女性割合	県との差
<b>箕輪町</b>	<b>1,580</b>	<b>37.4%</b>	<b>19.7%</b>	<b>22.3%</b>	<b>-2.4%</b>
伊那市	4,160	26.9%	9.2%	24.1%	-0.7%
駒ヶ根市	2,119	27.9%	10.2%	21.2%	-3.6%
辰野町	1,058	37.9%	20.2%	21.1%	-3.7%
飯島町	565	39.3%	21.6%	21.1%	-3.7%
南箕輪村	1,287	26.4%	8.7%	24.6%	-0.1%
中川村	301	29.9%	12.2%	20.6%	-4.2%
宮田村	595	34.8%	17.1%	23.0%	-1.7%
<b>上伊那</b>	<b>11,665</b>	<b>30.5%</b>	<b>12.8%</b>	<b>22.8%</b>	<b>-1.9%</b>
<b>長野県</b>	<b>129,815</b>	<b>17.7%</b>	-	<b>24.8%</b>	-
飯田市	6,676	23.6%	5.9%	27.2%	2.5%
塩尻市	4,693	20.3%	2.6%	23.7%	-1.0%
茅野市	2,930	27.9%	10.2%	26.4%	1.6%
諏訪市	3,287	22.0%	4.3%	25.2%	0.4%
岡谷市	3,449	24.5%	6.8%	22.9%	-1.8%
下諏訪町	1,025	21.7%	3.9%	22.7%	-2.0%
富士見町	829	24.1%	6.4%	25.2%	0.4%
原村	438	21.9%	4.2%	19.2%	-5.6%
諏訪郡	11,958	24.3%	6.6%	24.4%	-0.4%

（出典）総務省統計局「国勢調査報告」をもとに箕輪町企画振興課作成

2015 年と同様に町の産業構造を反映し、製造業に従事する女性の割合が高い。

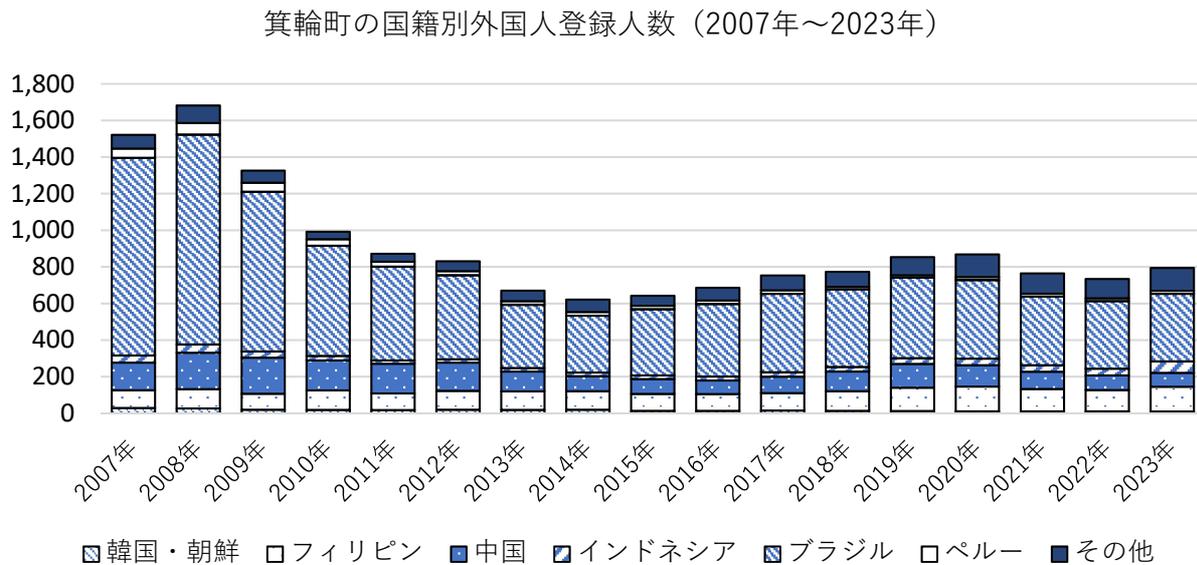
## 1-10 近年は県内転入超過傾向



(出典) 長野県毎月人口異動調査を基に箕輪町企画振興課作成

リーマンショック（2008年）により転出超過が続いたが、2016年以降は県内での転入超過傾向となっている。

## 1-11 外国人も増加傾向



(出典) 「箕輪町町勢要覧」等を基に箕輪町企画振興課作成

2014年に最低を記録。2015年以降、外国人登録数は再び増加傾向にあるが、コロナ禍では減少した年もあり、社会状況等の動向に左右されやすいことから、引き続き今後の動きは不透明。

## 1-12 若年層の県外転出傾向が続く

転入－転出（2023年）

年齢	郡内	県内 (郡内除く)	県外	国外	合計
0-4歳	△ 7	5	1	-	△ 1
5-9歳	△ 6	△ 2	2	-	△ 6
10-14歳	1	1	△ 1	-	1
15-19歳	△ 6	△ 12	△ 24	-	△ 42
20-24歳	3	13	△ 52	-	△ 36
25-29歳	△ 5	0	△ 18	-	△ 23
30-34歳	△ 7	7	△ 2	-	△ 2
35-39歳	9	8	13	-	30
40-44歳	△ 4	3	2	-	1
45-49歳	8	1	3	-	12
50-54歳	1	△ 4	6	-	3
55-59歳	2	0	0	-	2
60-64歳	△ 3	3	7	-	7
65-69歳	△ 1	2	△ 2	-	△ 1
70-74歳	△ 1	2	△ 5	-	△ 4
75-79歳	2	0	1	-	3
80-84歳	△ 4	0	1	-	△ 3
85-89歳	△ 1	0	1	-	0
90歳以上	2	△ 1	2	-	3
<b>合計</b>	<b>△ 17</b>	<b>26</b>	<b>△ 65</b>	<b>-</b>	<b>△ 56</b>

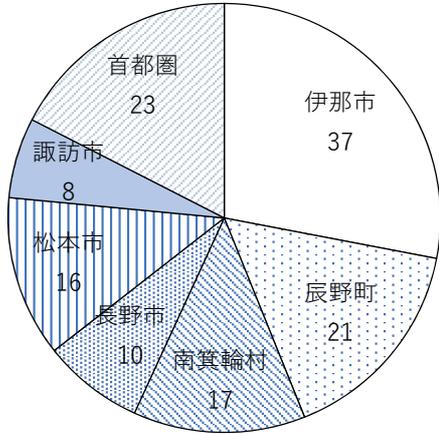
（出典） 箕輪町住民基本台帳を基に箕輪町企画振興課作成

※国外は不明

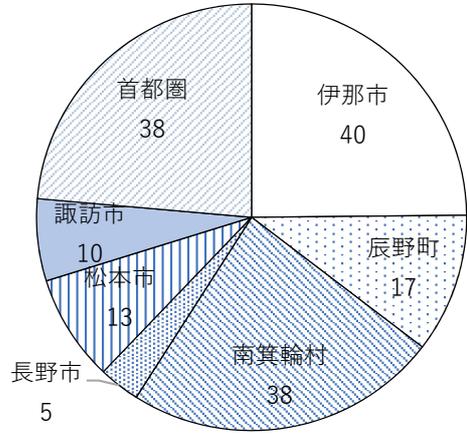
20歳代を中心とした若年層の県外転出超過は依然として課題である。

## 1-13 25～34歳は郡内市町村と転出入をやり取り

25～34歳の主な転入元市町村



25～34歳の主な転出先市町村



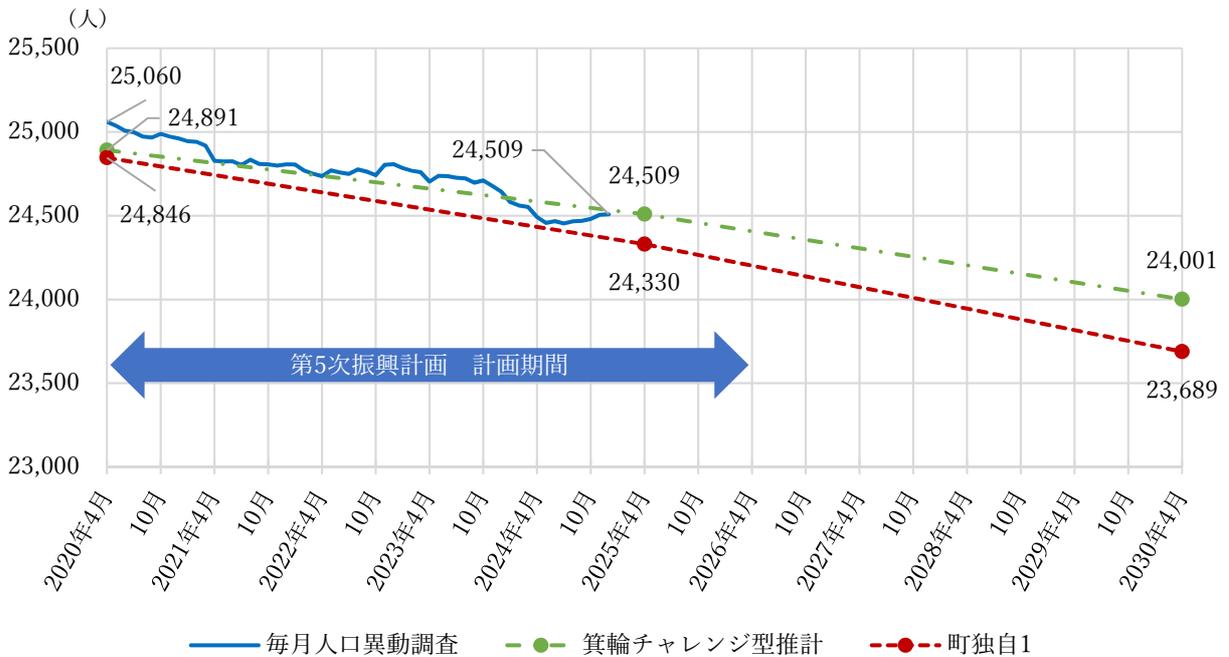
(単位：人)

(出典)2023年住民基本台帳を基に箕輪町企画振興課作成

半数以上が、郡内市町村で転出入をやり取りする状況は変わらない。隣接する南箕輪村とは本町からの転出超過となっている。

## 1-14 第2期人口ビジョンのチャレンジ目標に近づいている

第2期人口ビジョン推計と実績人口との比較



2024年12月の実績値は、第2期人口ビジョンの2025年の目標と同数となっている。実績値は、第2期の町独自1推計を上回っている。

## 1-15 箕輪町人口の自然増減と社会増減の課題

### ■第2期における人口維持の主な要因

- 合計特殊出生率の持ち直し：1.70（2018年）→1.42（2020年）→1.59（2023年）
- 社会増（主に郡内・県内の転入超過）：+94人（2019-2023年の5ヵ年計）
- 外国人住民の増加：773人（2018年）→794人（2023年）

### ■第2期における人口減少の主な要因

- 女性生産年齢人口の減少：▲148人〔6,887人（2020年）→6,539人（2024年）〕  
（参考：男性生産年齢人口：▲105人〔7,376人（2020年）→7,234人（2024年）〕）
- 死亡数の増加：257人（2019年）→297人（2023年）
- 自然減：▲117人（2019-2023年の5ヵ年計）

### ■現状と今後の課題

#### 【現状】

- 出生率は上昇傾向にあるが、依然として15～49歳の女性人口が減少していることから、出生数の増加は見込めないと予測される。一方で、団塊の世代を中心に人口の多い年代の高齢化がさらに進むことから、今後死亡者数の増加が見込まれ、自然減の数は大きくなると予測される。
- 若年層の県外転出超過の傾向も続いている。また、25歳～34歳では半数以上を郡内市町村で転出している状況も変わっていない。
- 2015年以降の郡内、県内間の社会増は大きいですが、2008年から2015年にかけての大きな人口減少やコロナ禍での県外への転出増などがみられたように、経済動向や社会状況に左右される傾向にある。あわせて、外国人住民数についても社会状況等により変動の可能性がある。

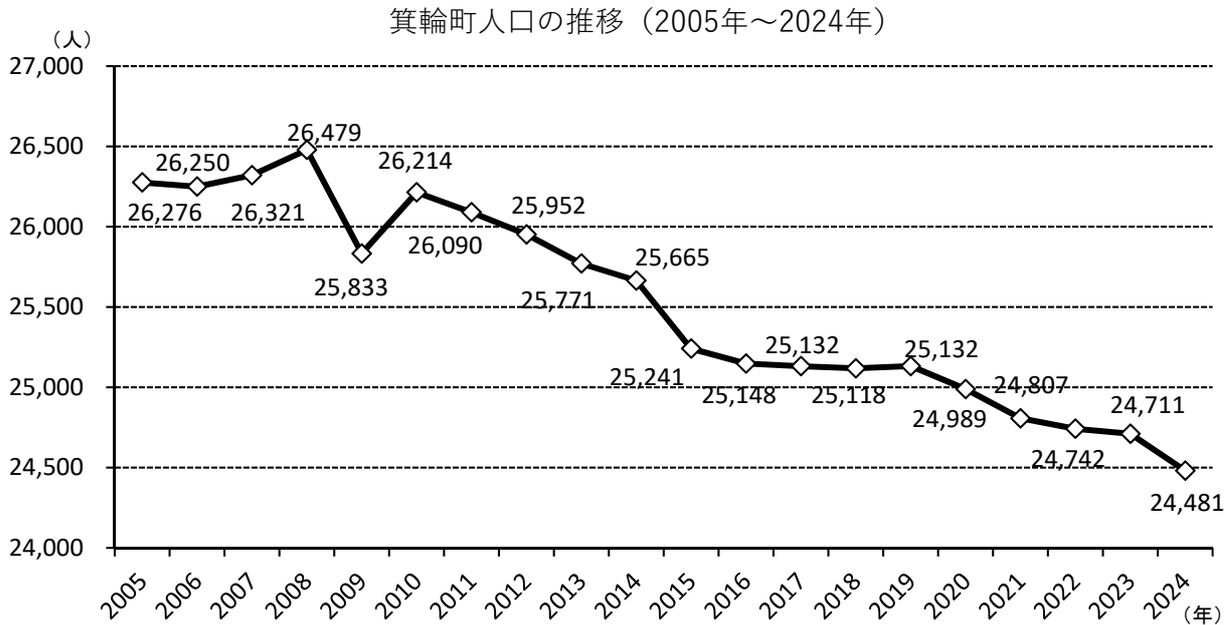
#### 【課題】

- 今後拡大すると予測される自然減に対応するために、女性人口や子育て世代の増加策が必要
- 引き続き定住地として選ばれる魅力あるまちづくりを推進する必要
- 経済動向や社会状況による社会増減の大きな変動にも対応できるような社会基盤づくりが必要

## II 将来人口推計

～将来人口の推計結果と今後の対応～

## II-1 近年の人口は横ばい



（出典）長野県企画振興部「市町村別・年齢5歳階級別人口」（10月1日現在）をもとに箕輪町企画振興課作成

リーマンショック後の2008年以降人口減少が続いている。

## II-2 2020年実績人口は、社人研推計を上回る\*

（単位：人）

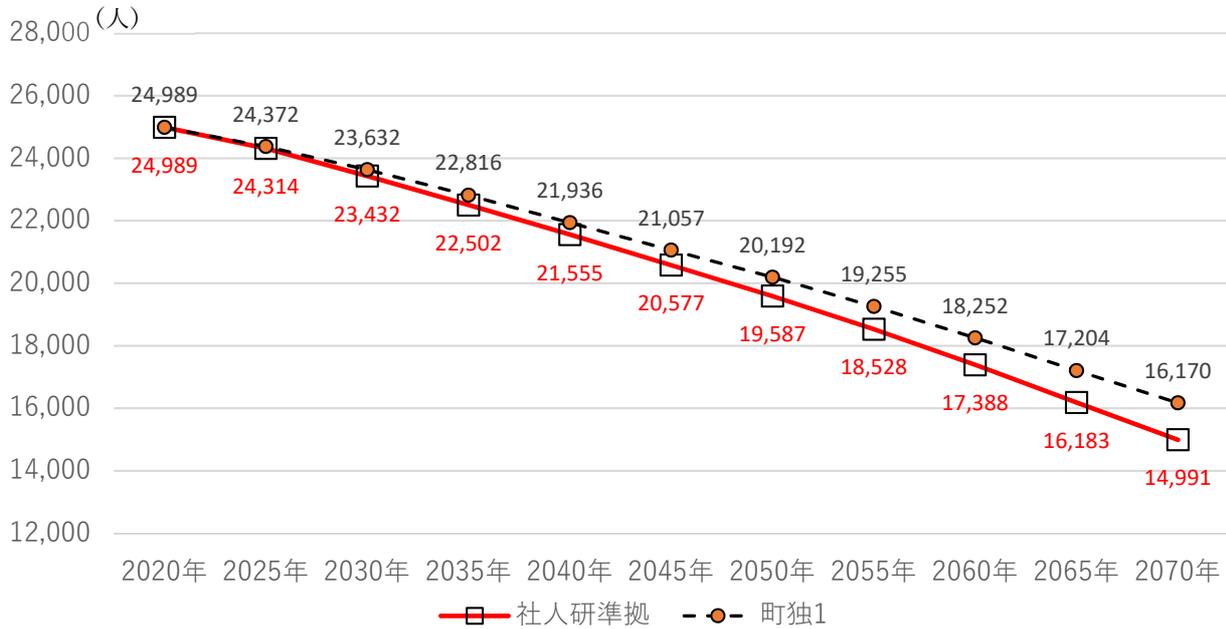
	2020年				2020年		
	実績 a	社人研推計 b	差 (a-b)		実績 a	社人研推計 b	差 (a-b)
0～4歳	937	923	14	50～54歳	1,690	1,697	△7
5～9歳	1,093	1,028	65	55～59歳	1,512	1,505	7
10～14歳	1,287	1,267	20	60～64歳	1,447	1,425	22
15～19歳	1,155	1,146	9	65～69歳	1,652	1,629	23
20～24歳	898	828	70	70～74歳	1,944	1,865	79
25～29歳	1,061	967	94	75～79歳	1,466	1,432	34
30～34歳	1,171	1,129	42	80～84歳	1,064	1,022	42
35～39歳	1,393	1,300	93	85～89歳	788	793	△5
40～44歳	1,811	1,755	56	90歳以上	572	492	80
45～49歳	2,048	2,013	35				
				総数	24,989	24,216	773

注）社人研…国立社会保障・人口問題研究所

※実績は、2020年国勢調査による。社人研推計は、2018年(平成30年)3月30日発表による推計値

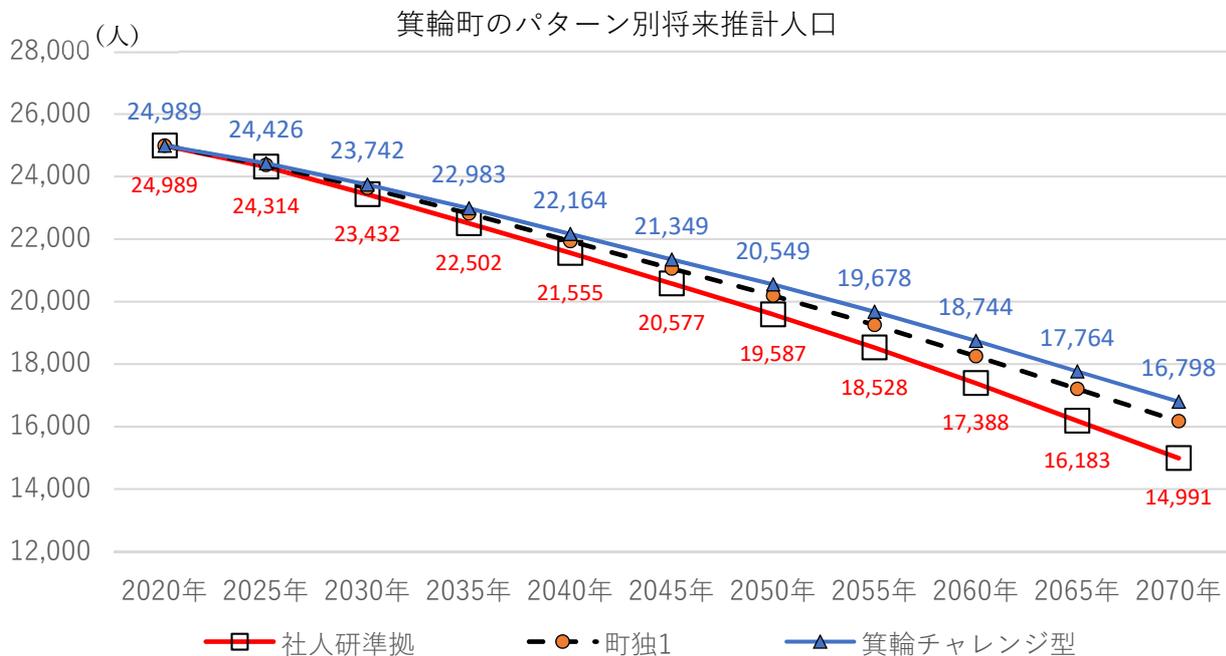
2020年の実績人口（確定値）は社人研推計を773人上回る結果となった。

### II-3 2030年推計人口は社人研推計で23,400人、町独自推計で23,600人の予測



※上段数字が封鎖人口推計による値、下段が社人研推計準拠による値

### II-4 出生数・転入者数の増加施策の実施で2030年に23,700人程度



施策（箕輪チャレンジ）により、人口減少を緩やかなものにする事が期待できる。

## II-5 2030年には合計特殊出生率を1.65に

	2020年（参考）	2021年	2025年	2030年
合計特殊出生率	1.42	1.70	1.65	1.65
年間出生数※	137人	157人	170人	155人
15～49歳女性人口	4,143人	4,053人	4,168人	3,810人

※2025年と2030年の出生数については、2018年～2021年の出生数の平均値（165人）を用い、2021年の15～49歳の女性人口と年間出生数の割合（4.07%）から算出した仮定値である。2025年と2030年の合計特殊出生率は、第2期で掲げた2025年の目標とする合計特殊出生率である。

（出典）総務省統計局「国勢調査」、長野県衛生年報を基に箕輪町企画振興課作成

## II-6 移住定住対策により1年で50人、10年間で500人増加

	実績値※			箕輪チャレンジ型推計
	2021年	2022年	2023年	
Uターン施策（県外）	25人	23人	35人	14人/年 若年者：4人 子育て世帯：2世帯8人 退職後夫婦：1世帯2人
Iターン施策（県外）				9人/年 子育て世帯：2世帯7人 その他：1世帯2人
空き家施策（県外）				2人/年 1世帯2人
定住施策（郡内・県内）	101人	94人	99人	25人/年
計	126人	117人	134人	50人/年

※実績値は、みのわの魅力発信室で関与した人数

若年層、女性、子育て世代を中心に人口増の施策を展開することで、人口減少を緩やかなものにする可能性がある。

## II-7 箕輪チャレンジで取り組む施策

【第5次振興計画の目指す姿】

みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町  
～人口減少時代への挑戦・箕輪チャレンジ～

項目	対象者	施策
現在の暮らしやすさの維持	全町民	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人のつながりと協働のまちづくり</li> <li>■安全・安心の推進</li> <li>■快適な生活環境の整備</li> <li>■地域ぐるみの健康づくり</li> <li>■共に生き、支え合う福祉のまちづくり</li> <li>■地域への愛着と誇りを育てる教育の推進</li> <li>■景観や自然環境の保全・育成</li> <li>■安全性・利便性の高い都市基盤整備</li> </ul>
出生数の増加	若年者 子育て世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>■出会い・結婚の支援</li> <li>■妊娠・出産の支援</li> <li>■育児・子育て支援</li> <li>■地域で支える子育て環境づくり</li> </ul>
転入者の増加	転入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■移住定住の推進</li> <li>■知名度の向上・交流人口の増加</li> <li>■雇用の創出と人材の育成</li> <li>■産業の活性化</li> <li>■輝く産業の育成</li> <li>■生活を支える利便性の確保</li> <li>■地域への愛着と誇りを育てる教育の推進</li> </ul>
	若年者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■雇用の創出と人材の育成</li> <li>■産業の活性化</li> <li>■若者・女性に魅力あるまちづくり</li> </ul>
	子育て世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>■雇用の創出と人材の育成</li> <li>■産業の活性化</li> <li>■育児・子育て支援</li> <li>■地域で支える子育て環境づくり</li> </ul>
	退職者世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者の生きがいづくり</li> </ul>
転出者の抑制	転出者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■雇用の創出と人材の育成</li> <li>■産業の活性化</li> <li>■輝く産業の育成</li> </ul>

## II-8 箕輪チャレンジで15歳未満人口割合を上昇

	2020年		2030年		2040年	
	人口 (人)	割合 (%)	人口 (人)	割合 (%)	人口 (人)	割合 (%)
<b>実績人口</b>	24,989	100.0				
0～14歳人口	3,317	13.3				
15～64歳人口	14,186	56.8				
65歳以上人口	7,486	30.0				
<b>社人研推計</b>			23,433	100.0	21,553	100.0
0～14歳人口			2,483	10.6	2,231	10.4
15～64歳人口			13,212	56.4	11,015	51.1
65歳以上人口			7,738	33.0	8,307	38.5
<b>町独自1</b>			23,632	100.0	21,936	100.0
0～14歳人口			2,620	11.1	2,470	11.3
15～64歳人口			13,457	56.9	11,474	52.3
65歳以上人口			7,555	32.0	7,991	36.4
<b>箕輪チャレンジ型推計</b>			23,742	100.0	22,164	100.0
0～14歳人口			2,656	11.2	2,523	11.4
15～64歳人口			13,524	57.0	11,635	52.5
65歳以上人口			7,561	31.8	8,006	36.1

15歳未満人口の割合を少しでも上昇させるためにも箕輪チャレンジの効果的な展開が必要。

## 11-9 区ごとの将来推計人口

移動率実績型推計による2030年までの各区の推計人口と2020年からの増減率 (単位:人、%)

	沢区	大出区	八乙女区	下古田区	上古田区	中原区	松島区	木下区	富田区	中曽根区	三日町区	福与区	長岡区	南小河内区	北小河内区
2020年実績	4,082	1,983	534	301	684	331	6,384	5,421	351	312	1,176	671	1,163	610	986
2030年推計	3,902	1,766	584	322	587	272	6,414	4,939	286	258	1,107	524	1,076	595	801
増減率	△44	△109	94	70	△142	△178	05	△89	△185	△173	△59	△219	△75	△25	△188

(出典) 国土技術政策総合研究所「人口・世帯予測ツールバージョン3.0」を用いた推計結果から表を箕輪町役場企画振興課で作成

区ごとの将来人口を推計した場合、2030年には多くの区で減少するという推計結果※となる。中には2割程度の減少率と推計される区もある。

※三日町区については、移動率が大きく現実的でない推計結果となるため、町全体の平均の移動率を採用した

箕輪チャレンジ型推計による2030年までの各区の推計人口と2020年からの増減率 (単位:人、%)

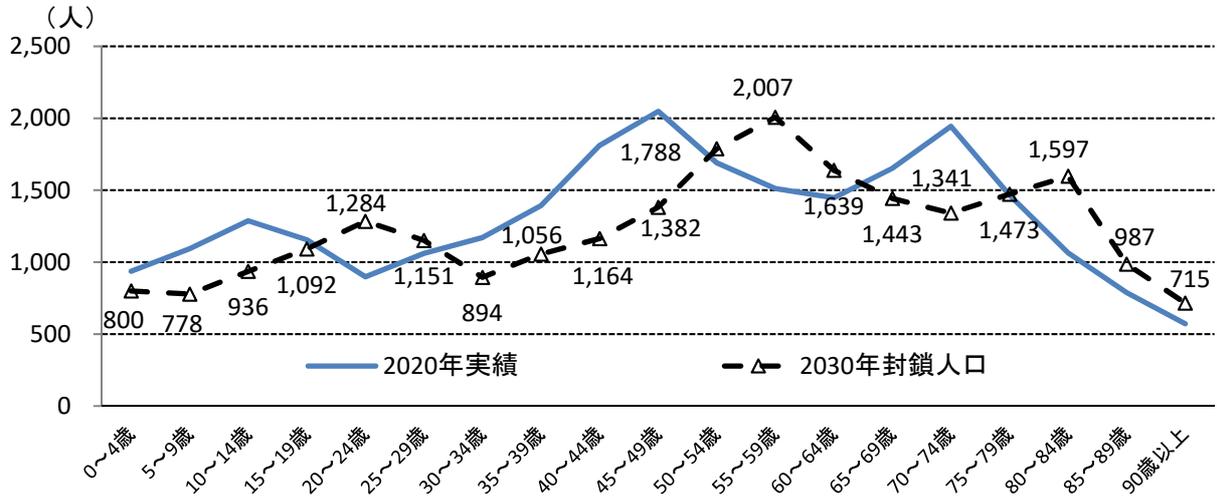
	沢区	大出区	八乙女区	下古田区	上古田区	中原区	松島区	木下区	富田区	中曽根区	三日町区	福与区	長岡区	南小河内区	北小河内区
2020年実績	4,082	1,983	534	301	684	331	6,384	5,421	351	312	1,176	671	1,163	610	986
2030年 箕輪チャレンジ型 推計	3,953	1,789	592	326	595	276	6,499	5,004	290	261	1,122	531	1,090	603	812
2030-2020 増減率	△31	△98	108	84	△130	△167	18	△77	△174	△162	△46	△209	△63	△12	△177

2030年の区ごとの将来人口推計から得られた人口構成比を用いて、箕輪チャレンジを実施した場合の将来人口を算出すると、すべての区で減少率が改善するという結果となる。

町全体の動向及び区ごとの動向を勘案しながら、施策を展開する必要がある。

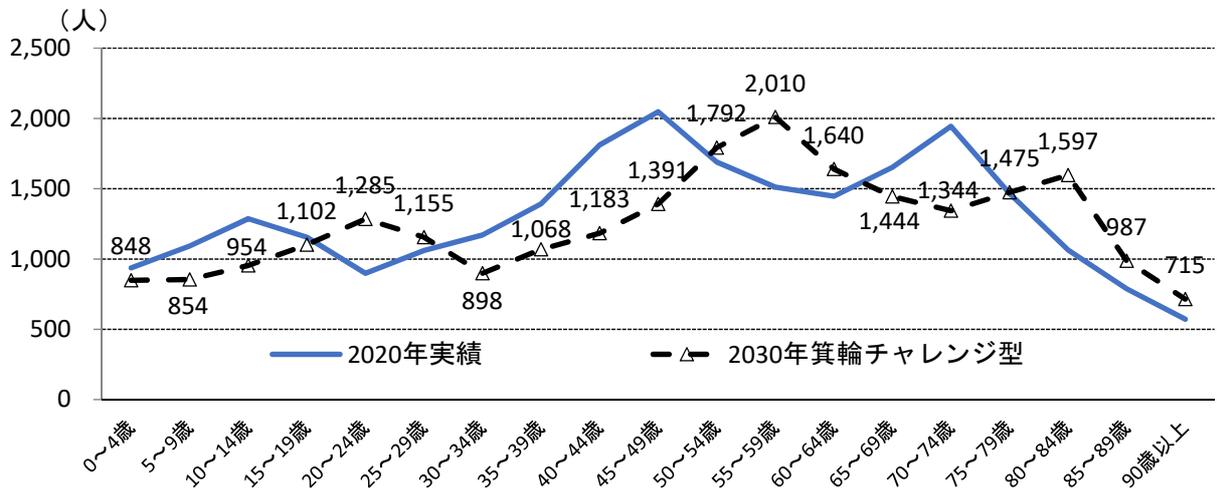
## II-10 社会移動がないと仮定すると 2030 年までに 1,500 人程度減少

箕輪町の 5 歳階級別人口の推移 1 (2020 年→2030 年)



## II-11 箕輪チャレンジ型推計で 2030 年までに 1,200 人程度の減少

箕輪町の 5 歳階級別人口の推移 2 (2020 年→2030 年)



箕輪チャレンジの実施により、封鎖人口仮定の場合と比較すると、300 人程度人口減少を抑制できる結果となる。また、2030 年までに 20~34 歳人口を維持し、年少人口増加を見込む。

## II-12 今後も15歳未満は減少、65歳以上は増加

社人研の推計結果では、15歳未満の年少人口割合は、2040年にかけて減少するという推計結果が出ており、箕輪チャレンジによって、少しでも抑制する必要がある。

一方で、箕輪チャレンジによって人口減少に歯止めがかかっても2045年頃までは、65歳以上人口が増加するとの推計結果が出ている。

推計結果をもとに、少子高齢化の傾向は今後も変わらないことを念頭に置き、施策等を展開する必要がある。

箕輪チャレンジの効果により、年少人口の割合を1割以上で維持できることが期待される。

## II-13 これからのまちづくりは、施策の取捨選択が必要

今後人口減少が継続していくことは明らかである

### 【人口減少による課題】

- ・高齢者の増加に対する支え手の不足 → 社会保障費の増加
- ・生産年齢人口の減少による税収減 → 行政サービスの提供困難  
インフラの整備・維持困難
- ・働き手の不足 → 企業の経営継続困難 → 税収減
- ・空き家の増加 → 地域環境の悪化
- ・コミュニティの希薄化 → コミュニティの継続困難

### 【町の構造的課題】

- ・経済動向に左右される人口移動 → 景気低迷による人口減少の可能性

#### ■行政

- ・人口減少を前提とした施策の展開
- ・まち・ひと・しごと総合戦略の展開

#### ■区・常会・町民

- ・地域コミュニティの活性化
- ・町民参画による協働のまちづくり

みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町

## 【参考】

### 人口ビジョンで用いた将来人口推計方法

本ビジョンの「町独自1」及び「箕輪チャレンジ型推計」は、社会増減がないと想定した封鎖人口（自然増減のみ、社会増減ゼロ）を採用し、推計を行った。

第1期では、2005年から2010年の移動率を用いていたが、2010年から2015年にかけての町の移動率は△3.7%と大きいものとなった。この率を基礎とすると急速な人口減少が予測されたことから、第2期では、今後の経済動向が不安定と予測されるとし、社会増減が±0で推移する、自然増減のみを基礎にした封鎖人口による推計を行った。

第1期からの社会増減を振り返ると、2008年から2015年は景気低迷により大きな社会減がみられたが、景気の復調により2015年からは社会増に転じたものの、その後の新型コロナウイルス感染症の流行時の初期には、再び社会減へ転じるような状況となった。

そこで、本改訂においても社会増減は不確定要素が大きく、推計結果に大きな影響を与えることから、封鎖人口を採用することとした。

将来の合計特殊出生率は、前回改定時では2025年に1.80程度になると見込んでいた（箕輪チャレンジ型推計）が、2015年～2023年の実績を平均すると1.60であることを考慮し、目標を下方修正し、合計特殊出生率が1.65程度で推移するものと仮定して、町独自推計1及び箕輪チャレンジ型推計を行っている。

なお、「社人研準拠」推計は、社人研推計の最終的な推計結果と整合的な、将来の生残率、純移動率、子ども女性比及び0-4歳性比の各指標を利用した推計だが、端数処理の関係で社人研推計とは若干値が異なる場合がある。